

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571500291		
法人名	医療法人社団 生和会		
事業所名	グループホーム和み		
所在地	山口県周南市大字湯野4298-1		
自己評価作成日	平成24年7月31日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年8月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温泉街の静かな山間で、周囲は一般住宅になっており、施設としての目的に適った立地条件にあります。又、法人の医療施設もすぐ傍にあり安心して生活が送れます。病院とは違いゆったりとした環境の中、いっさい施設せず、スタッフと利用者の枠を超え、共に生活を送る共同生活者として、三食の食事作りから一緒にいき、多様なレクリエーションにも参加されながら、生き生きとした表情で生活されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と相談しながらその日の献立をたてて、三食共事業所で食事づくりをしておられます。台所には利用者が椅子に座ったまま作業の出来る調理台が設置され、利用者は材料を切ったり、煮たり、味付け、盛り付けなどの食事の準備や後片付けなどできることを職員と一緒にしておられる他、年3回ほとんどの家族が参加され、一緒に料理をして食事を楽しんでおられます。毎月1回外食に行ったり、散歩やドライブ、季節の花見、家族の協力を得て動物園へ行くなど外出支援も多くされています。ぬり絵、パズル、ゲーム、トランプ、将棋、風船バレー、文字遊び、習字、墨絵、カラオケ、歌、読書、花の水やり、金魚のえさやりなど、活躍できる場面を多つくり、張合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しておられます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で生活する事の大切さを元に、事業所理念を作成し、玄関、各ユニットに掲示し、カンファレンス時には念頭に置き、実践に繋げている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、掲示して、ミーティングで理念に基づいた対応ができているかなど話し合い、共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーの利用・外食等自然な形で地域との繋がりを持ちながら生活を送っている。七夕の笹や野菜などの差し入れなど近隣住民との交流もある。	法人主催の夏のフェスティバルで、地域の人達と交流をしている。中学生の職場体験の受け入れや法人の託児所の子どもたちとのふれあいがある他、近くの店やスーパーでの買い物時や散歩時に近隣の人と声をかけあったり、季節の野菜や花の差し入れがあるなど、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の職場体験への事業開放を継続することで認知症の方とのふれあう機会を提供する。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で自己評価を行う事により、自己の支援の振り返りが出来、いろんな事への問題意識を持つ事により改善へ繋げている。	評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。前回の評価結果を活かして、月1回のカンファレンス時にマニュアルの勉強会を実施する他、救急救命の訓練を定期的に行うなど、改善に向けて取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議へは、他職種のメンバーの参加があり、運営内容、状況等を報告し、サービスについて意見交換をしており、日々の支援へ反映している。	地域包括支援センター職員、介護相談員、家族等の参加で2ヶ月に1回開催している。運営状況、活動状況、利用者の日常の生活、行事内容、事故報告、外部評価への取り組み状況等について報告し、災害時の対応や防災について、意見交換している。	・参加メンバーの拡大	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、市の高齢者支援課の職員の方が、運営推進会議のメンバーに入っており、運営やサービスについて電話、メール、直に訪問を行い協力関係を持つようにしている。	運営推進会議の他、直接出向いたり電話やメール等で市担当課や地域包括支援センターと連絡を取り合い、相談や情報交換をし、協力関係を築くように努めている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修も行い、利用者の方自身を知ることにより、個々に応じた対応を行いながら、安全を考え、拘束や施錠をしないケアを行っている。	マニュアルがあり、研修を実施し、職員は正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。日中玄関は施錠せず、一人ひとりのその日の状態を把握し、外出傾向のある利用者には一緒に外出するなど支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会をもち、高齢者虐待が起こりうる状況を確認しながらカンファレンス時に、高齢者介護（認知症）の理解や全職員が無理なく行える支援を検討しながら防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている方もおられ、勉強会の中でスタッフが学びながら、必要性のあるご家族に対しては、制度内容をご説明させていただき、活用に向けて働きかけている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所のサービスについて十分なお説明をさせていただき、理解・納得をされたうえでの締結、解約を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員としての苦情相談窓口について、ご家族に説明しており、家族参加型行事への参加、運営推進会議のメンバーにもなって頂きながら、気軽に話せる機会を作っている。来所された際に意見箱の設置も行っている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを家族に説明している。電話や面会時、3ヶ月に1回の介護計画見直し時、年3回の家族参加行事の時、運営推進会議時等で、家族の意見や要望、苦情を聞いている。出た意見は運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場で働いている管理者や職員の運営に関する意見や提案を、2ヶ月に一度開催されている同法人内施設合同会議にて、聞く機会を設けている。	月1回のミーティング、年1回の全体会議、法人内施設会議などで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は気軽に意見が言えるように努めており、勤務体制や業務改善等の提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が常勤であり、ゆとりのある勤務体制の中、勤務状況に応じて給料水準の引き上げや福利厚生の実施にて職場環境・条件の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度のユニットミーティング時に内部研修を行い、外部研修については、事業所連携就職支援事業にも参加し、職員のスキルアップの為に積極的な取り組みを業務の一環として行っている。	外部研修は職員の希望や段階に応じて、勤務の一環として受講の機会を提供している。内部研修は、年間計画を立て、毎月のユニットミーティングの中で実施するとともに、言葉かけや対応などケアについてお互いに助言し合い、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会への加入や近隣のグループホームとの合同研修への参加など、積極的に交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族、本人の思いに耳を傾け、アセスメントをしっかり行い、環境の変化に対するストレスの軽減を図っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設サービスに対する説明を見学も含めて十分に行い、関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族が必要とされている支援について、要望を聞き入れながら、他のサービス利用も含めた対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰支援を行わず、本人の出来る事の大切さを職員が理解し、利用者さん本人を知る事によって自らが自然の形で日常生活を行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加型行事や誕生日会などの呼びかけや、利用者の方にはご家族の方の支援が必要である旨を日々の生活報告を行う事で、ご家族から協力を得られている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの際、馴染の場所やご自宅へ立ち寄ったり、馴染の方々への来訪などがある。	近所の人や知人の訪問、ドライブで自宅周辺に行ったり、親せきからの電話の取次ぎなどの支援をしている。家族の協力を得て、盆や正月の外泊や食事に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの性格や状態を把握し、小さなトラブルを未然に防ぎながら、個々の意思を尊重し、お互いが助け合える状況作りを行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族の方から、手伝えることがあればと声を掛けて頂いたり、医療施設に入院されている方への面会など関係が途切れることのないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで得られたご家族・本人の希望に加え、日々の生活の中で会話のなかから見えてくる想いを記録に残し、本人にとっての暮らし方について検討している。	日々のかかわりの中での言葉や表情等を記録し、思いや希望、意向の把握に努めている。困難な場合は家族や関係者から情報を得るなどして本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の情報を元に、以前サービス利用していた事業所への状況提供を求め把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録、ケアチェック表、ケア日誌等により、全職員が把握できる体制を作っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフ、ケアマネを中心に3ヶ月に一度、必要であればその都度、本人お支援に携わっているスタッフ、ご家族にて現状に応じた支援のあり方を話しあっている。	計画作成担当者、利用者の担当職員を中心に、担当者会議を3ヶ月ごとに行い、利用者の要望や状態、訪問時や電話連絡での家族からの意見を参考にしながら、介護計画を作成している。職員全員で毎月1回ケアカンファレンスを開催し、利用者一人ひとりのモニタリングを行っている。3ヶ月ごとや利用者の状態に変化に応じた計画の見直しを行っている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録については、カンファレンス時に、担当・ケアマネよりケアプランの内容に基づいたものや、特変については詳しく記録するように呼びかけることで、意識付けができ計画の見直しにも活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方におられる家族の方が居室内に泊まられたり、受診の送迎や、訪問理容サービスを利用されない方への美容院同行、個々の要望に合わせた買い物、民間で行われている無料コンサートへの参加など行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関の利用、近隣のスーパーへの嗜好品の買い物や飲食店への外食など活用している。他の資源も活用して行きたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望されるかかりつけ医へ定期受診を行い、心身の状態をフィードバックし、ドクターと良関係を保ちながら、職員同行の元に、適切な医療が受けれるよう支援している。	事業所の協力医療機関の他、本人や家族の希望するかかりつけ医での受診を家族と協力しながら支援している。かかりつけ医に利用者の情報を伝えるなど連携を図り、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の医療従事者と日々連携をとり、健康管理に努め、必要時の受診を行い、服薬に関しても薬剤師の指示をもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされてから、和みへ帰居までの医療機関との連携に関しては、同法人内の地域連携室のスタッフの協力がえられスムーズに行えている。帰居されてからの医療的なアドバイス・サポートも同法人医療機関で受けられる。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方は、個々において違い、現状において、ホームでの最大限のケアをご家族へ伝え、主治医との十分な話し合いを元にその方にとって幸せのあり方を考えながら支援を行っている。	「重度化した場合における対応に関わる指針」があり、入居時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族に事業所でできる対応について説明し、主治医、家族、関係者等と話し合い、方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	個々のリスクについては、カンファレンス時にはあがっており、マニュアルを定め、急変・事故発生時の内、外部研修を開催している。全職員の実践力を身につけられるよう定期的な訓練を行っている。	事故発生予防や再発防止の研修を実施し、事故が発生した場合には、インシデント、アクシデント報告書に記録し、その都度話し合い、カンファレンスで検討し、介護計画に反映するなど、一人ひとりの事故防止に努めている。消防署による救急救命の講習を全職員が定期的に受け実践力を身につけるように努めている。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の総合訓練と年2回の避難訓練を職員の少ない夜間を想定して行っている。地域の方の参加により安全に避難できる方法も考えている。火災については原因除去にも取り組んでいる。	マニュアルがあり、年1回消防署の協力を得て総合訓練を実施する他、年2回の夜間想定を含めた自主避難訓練を実施している。運営推進会議で防災について議題として取り上げているが、地域との協力体制はできていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月のカンファレンス時に支援方法について話し合わせ、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることがないよう職員の支援が他者に気づかれない対応を心がけている。	プライバシー保護に関する研修や倫理研修を実施し、日々の関わりの中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応に努めている。気になる言葉かけや対応に気づいた時は、管理者や職員同士で注意し合っている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色んな場面で、自分の思いを主張され、利用者の方に選択して頂けるような支援を行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人にとって1日のペースを考え業務内容の変更を行い、結果として睡眠がとれる、食事が美味しく食べられるなど、個々の希望に添いながら、支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「個々のおしゃれとは何か」を探り、個々に合った支援を考える。エプロンにこだわりのある方には、清潔なエプロンを毎日さりげなく使用できるように準備する。同じ服にこだわりのある方には、ご家族にお話しし、洗い替えを2枚準備して頂くなどしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	三度の食事を利用者の方と、献立から、片付けまで一緒に行い、職員も同じ物を食べながら、話題提供を行い、美味しくいただけるようにしている。	その日の献立を利用者と相談しながら立て、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は、買物、調理、食事の準備、片付けなどを職員と一緒にしている。利用者と職員が同じテーブルで同じものを食べながら会話し、食事を楽しんでいる。毎月の外食、季節に合わせた行事食や手作りのおやつなど工夫している。毎週訪問してくる移動パン屋での買物も楽しみにしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量については、咀嚼、嚥下の状態に合わせて、食材の工夫を行うなどし、集計表にて、個々のチェックを行い、水分の足りない方についても、個々の好みを考え、ゼリーなどを取り入れるなど、個別支援を行っている。栄養面は、定期毎に医療法人の栄養士からアドバイスがある。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合ったケアを行っている。口腔内の確認、残歯がある方は、歯磨きの介助や歯磨きアドバイス等、状況把握に努めている。清潔保持の為に、歯ブラシの回収・洗浄・保管、夜間の義歯消毒を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表作成を行い、排泄パターンを職員が把握し、トイレ誘導を行っている。カンファレンス時には、利用者個々に合わせた紙パンツやパットの使用を話し合い変更を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンを把握し、さりげない声かけや誘導をしてトイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	青汁の飲水や、体操、散歩、水分摂取、定期的な排泄誘導(食後)などや、食物繊維の多い食材を取り入れることにより、自然排便に繋がるよう工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に毎日入浴とし、本人の状態、体調に合わせ、時間的にゆっくり入浴して頂いている。	毎日9時から17時の間、利用者の希望や体調に合わせ、ゆっくり入浴できるように支援している。利用者の状態により、シャワー浴や清拭、足湯などの対応もしており、入浴したくない場合は時間をずらしたり、声かけの工夫をするなど、入浴が楽しめるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠の確保、居室内の温度調整、日中はその方の体調、体力に合わせた休息をとっていただいている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬剤情報提供書をファイルし、目的や副作用、用途等について理解すると共に、薬は手渡し、服薬を確認している。受診時にはケアチェック表を持参して、必要な情報を医師にフィードバックしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	多様なレクを取り入れたり、散歩やお花の好きな方には花壇の手入れ、家事の好きな方には積極的に参加して頂いている。	ぬり絵、パズル、ゲーム、トランプ、将棋、風船バレー、文字あそび、習字、墨絵、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、花の水やり、金魚のえさやり、食事の手伝い、読書の好きな人は本や新聞など楽しみごとや活躍できる場面をつくり日々の暮らしが張り合いや喜びのあるものになるよう支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1の外出や日常の中での散歩、ドライブ、お彼岸には、ご家族の協力が得られるようお話しさせて頂いている。	近くの公園への散歩、買物、温泉での足湯、季節毎の花見、月1回の外出、ドライブ、家族の協力を得て動物園に行くなど、外出の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解の上、金銭の支援を行っている。使える許容範囲にて、自由に買い物されている。希望のある方に対しては、ご家族にお話しをし許せる範囲で持っていていただく。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけることは職員が行うが、直接電話口に出ていただき、話しをされており、ご家族への暑中見舞いや新年の挨拶、バースデイカードなどを職員の支援の下、書かれ郵送している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、いつも清潔にしており、食事作りの香りや音、季節の草花の鑑賞することで、季節に応じて自然に生活出来る。	共用空間は明るく生活感があり、リビングには、テレビやテーブル、ソファを配置し、畳コーナーでゆっくりくつろぐことができる。1階には犬、2階には金魚を飼っている他、季節の花を植えたプランターを置き、季節感を採り入れている。台所には利用者が椅子に座ったまま作業の出来る調理台があり、廊下にも椅子やソファが配置してあり、一人ひとりの居場所づくりをしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間、廊下などには椅子、ソファを設置し、思い思いの場所で過ごせる空間作り」を行っており、自由に気の合う方同士が、過ごされている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	アセスメント時に、家族、本人による、趣味や好みについて問い、入所される際に新しいものを購入されずに昔から使われていたダンスの持ち込みをされたり、お花作りをされている。	寝具、ダンス、机、椅子、テレビ、仏壇、ぬいぐるみ、写真、絵など好みの物を持ち込んでいます。花の好きな利用者が花を植えたプランターを置くなど居心地良く過ごせる工夫をしています。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内、バリアフリーにし必要な場所に手すりを設置、ソファなどは本をとりやすい位置に置くなどの工夫をしている。		